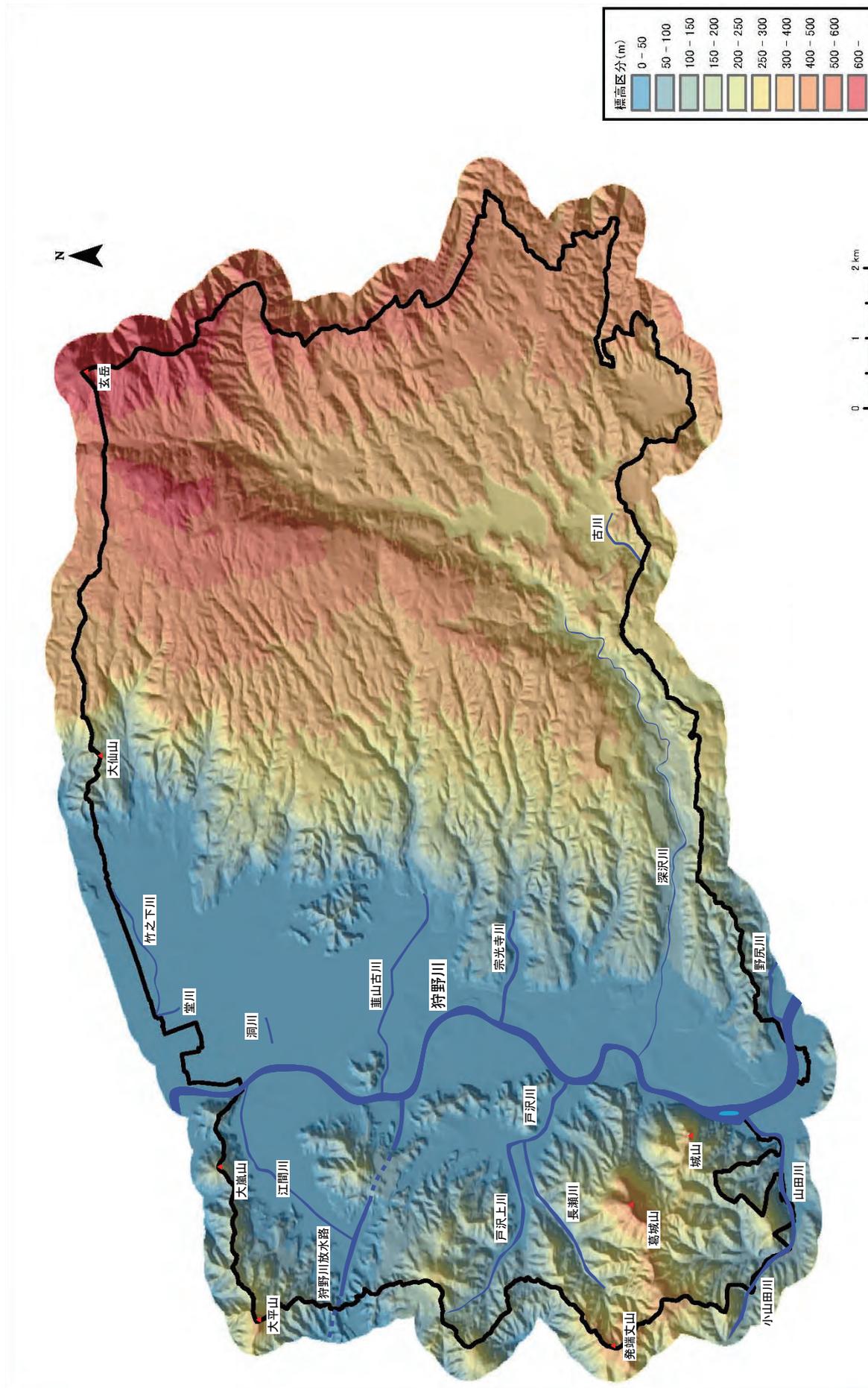
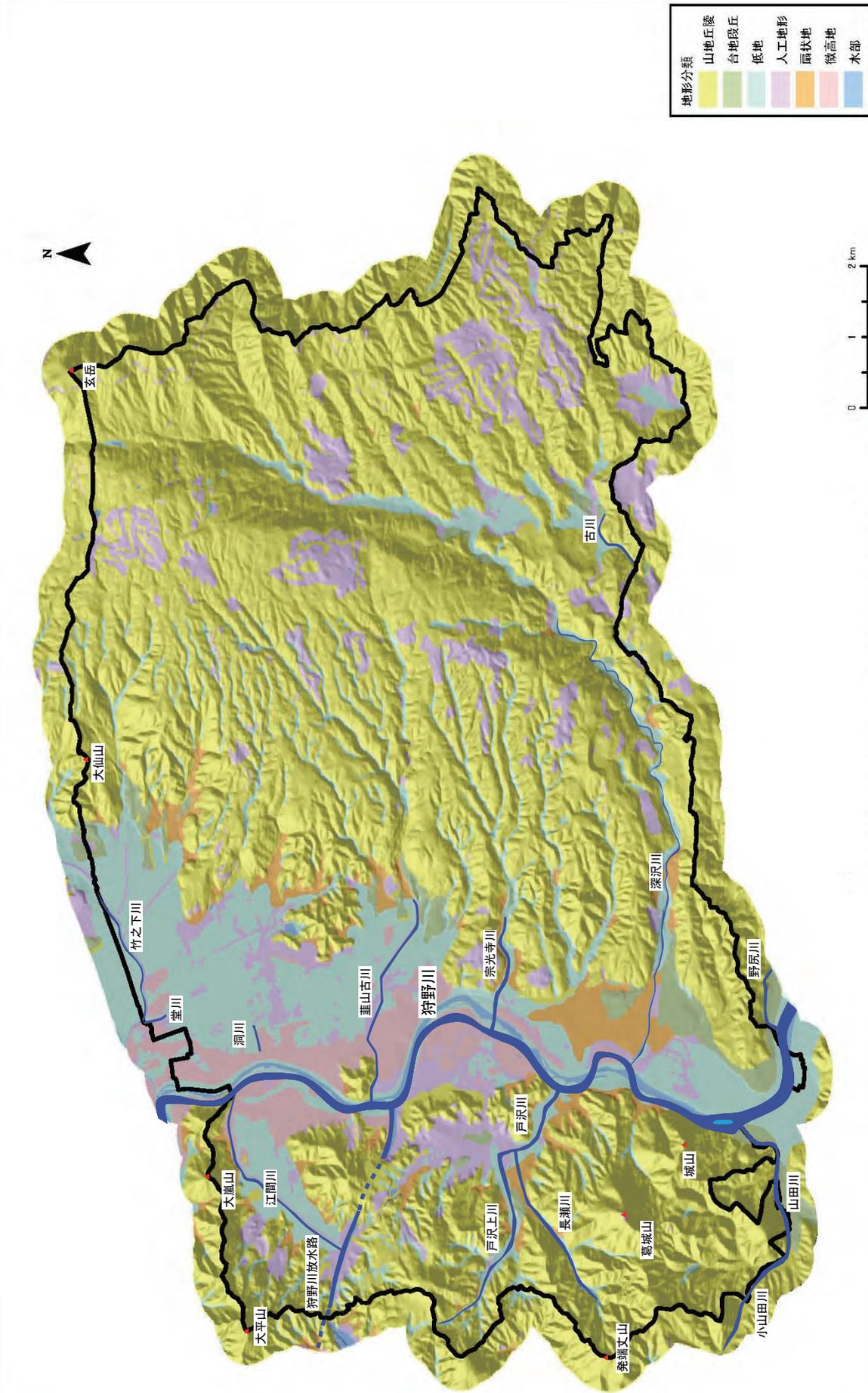


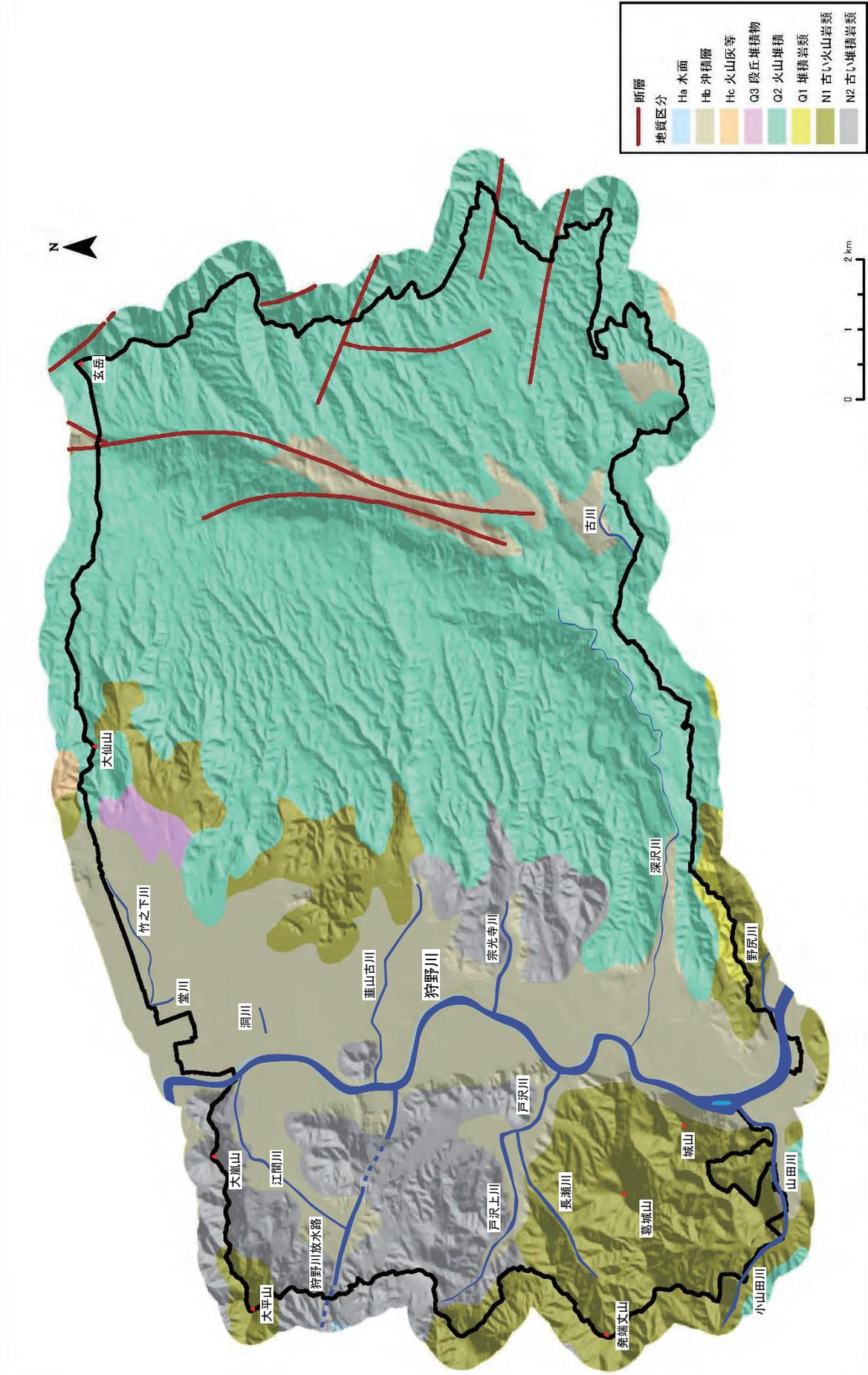
資料4 伊豆の国市域の標高区分



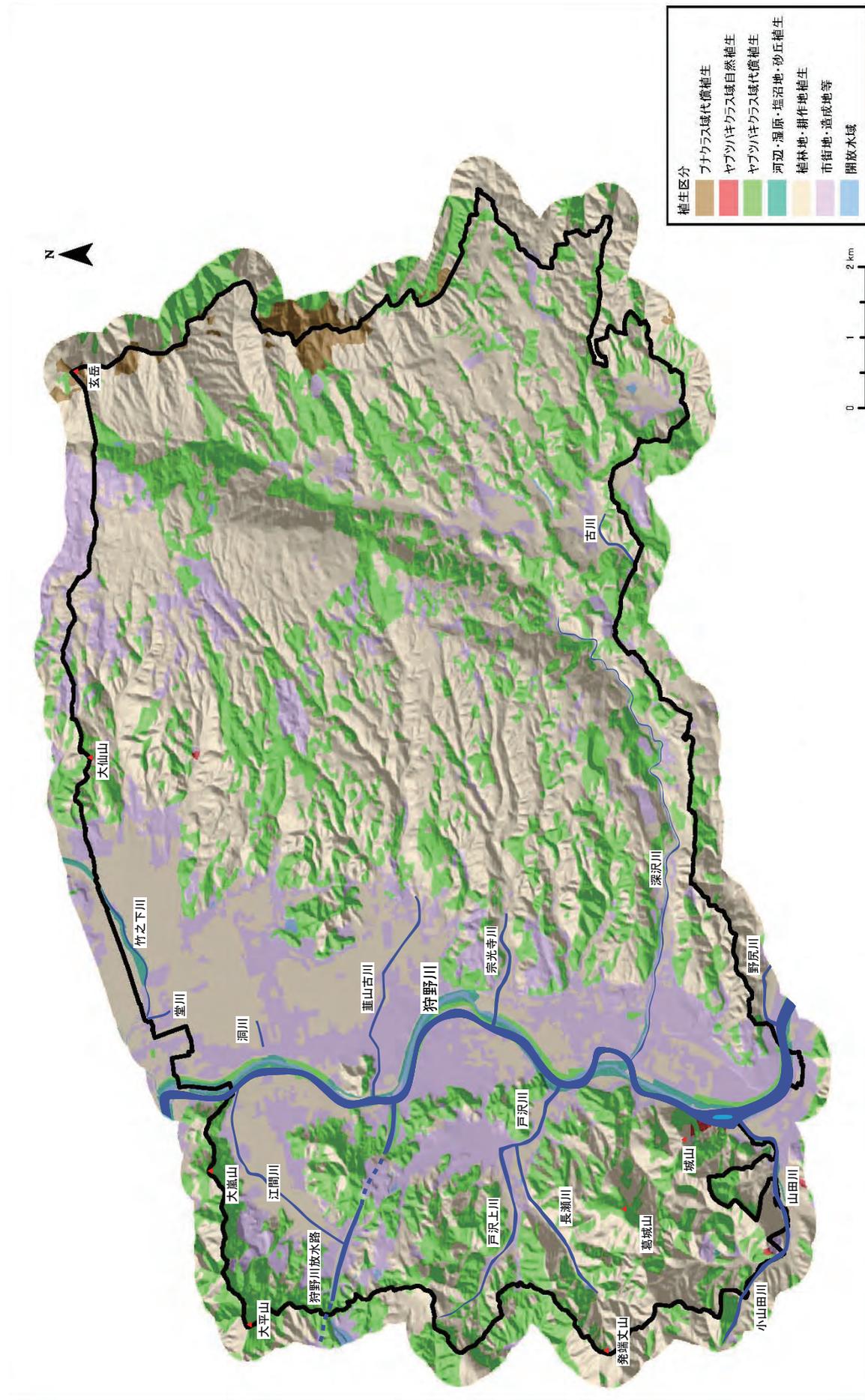
資料5 伊豆の国市域の土地条件



資料6 伊豆の国市域の地質区分



資料7 伊豆の国市域の植生区分



資料 8 歴史文化基本構想に関するアンケート調査結果

①住民意向の把握方法

市の文化財に対する市民の実感や問題意識、将来の方向に対する意向等を吸収するため、市民アンケート調査を実施した。

調査の実施概要は以下のとおりである。

調査準備と設計：平成 24 年 5～7 月

調査の実施：平成 24 年 5 月（6 月 20 日投函締切）

集計解析：平成 24 年 7～9 月

調査対象者：16 歳以上の市民 1,000 人を住民基本台帳より無作為抽出

調査方法：郵送による配布、郵送（料金受取人払）による回収

有効回収数：338 票

有効回収率：33.8%

設問項目の構成は以下のとおりとした。

○回答者の属性

・性別 ・年齢 ・職業 ・居住地区 ・居住歴

○伊豆の国市の文化財について

伊豆の国市の歴史や自分達の祖先の暮らしの興味

文化財・遺跡の由来やその保護・活用などについて全般的な関心

市内の文化財・遺跡の保護や活用の重要性

伊豆の国市の文化財・遺跡の中で、知っているもの、行ったことがあるもの

文化財・遺跡の中で、特に関心があり、その保護や活用が重要だと思うもの

○伊豆の国市のおもな文化財・遺跡について

文化財・遺跡を知ったきっかけ

お客様に文化財・遺跡に案内するとしたら、どの程度説明ができるか

文化財・遺跡のイメージ

文化財・遺跡の保護・保存状況の感想

文化財・遺跡の今後の保護・保存や活用についての考え

文化財・遺跡を公開・活用していく場合に、必要な整備

○伊豆の国市の文化財・遺跡全般における今後の整備等について

文化財・遺跡を整備・公開することについての考え

文化財・遺跡を紹介し学習施設を整備、充実させようとする場合、希望するサービス

文化財に関する活動のなかで、今後、参加してもいいと思うもの

○文化財の将来のあり方に対する自由な意見

有効回収率 33.8%は、行政が実施するまちづくりに関するアンケートの回収率としてはやや低いが、「歴史文化」という分野が特定された内容であるため、比較的歴史文化に関心の高い層の市民が積極的に回答し、普段から関心のない人には回答意欲が盛り上がらなかった結果と見ることもできる。したが

って、各設問の回答分布の結果は、市民総体の傾向を代弁しているというよりも、関心の高い人の意向がやや強く反映されたものである可能性がある。この点に注意して各設問の集計結果を見る必要がある。

②結果概要

回答者の属性分布は、女性が男性よりもやや多いこと、比較的高齢者の回答が多く 60 歳以上が全体の 44.0%を占めること、市内居住歴が 20 年以上という長期居住者が全体の約 7 割を占めること、有職者は約半数であること等の特徴がある。

回答者の居住地区分布は、概ね旧 3 町の人口分布を反映した値で、大きな偏りはない。

●伊豆の国市の歴史への関心、文化財・遺跡の保護・活用への関心について

伊豆の国市の歴史への関心、文化財・遺跡の由来や保護・活用への関心の度合はかなり高く、「非常に興味・関心がある」と「やや興味・関心がある」を合わせた割合は、前者で 67.3%、後方で 64.6%を占める。このことから、関心度の高い人が積極的に回答した可能性がうかがえる。

●市内の文化財・遺跡の保護・活用の重要性について

市内の文化財・遺跡の保護・活用の重要性はかなり強く認識されている。「非常に重要」と「やや重要」の合計割合は 79.3%に達し、「重要と思わない」の割合は非常に低い（グラフ 1 参照）。

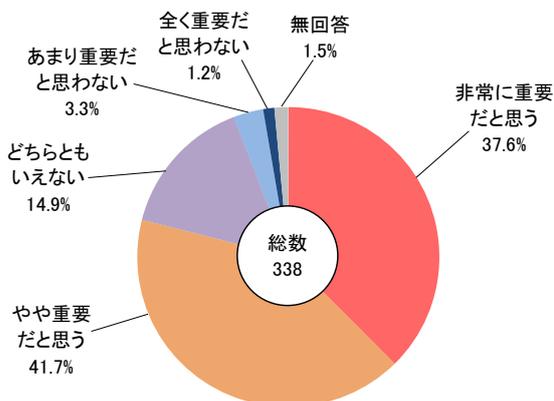
文化財・遺跡の保護・活用の重要性に関して、「非常に重要」を 2 点、「やや重要」を 1 点、「どちらともいえない」を 0 点、「あまり重要と思わない」を -1 点、「全く重要と思わない」を -2 点として、評価点を算出した。回答数で加重平均した評価点は 1.14 であるが、居住地区別にみると葦山地区が最も高く、伊豆長岡地区がやや低い値となっている。文化財・遺跡の集積の身近さが意識の相違に現れているものと見られる（グラフ 2 参照）。

●市内の文化財・遺跡について

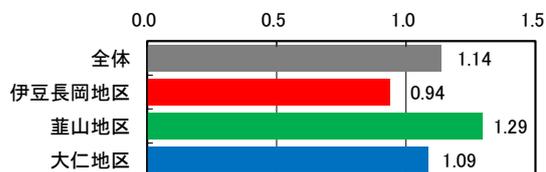
市内 26 ヶ所の文化財・遺跡について、周知度・アクセス率・関心・重要性の認識などについてたずねた。周知度（「知っている」の割合）は、葦山反射炉・蛭ヶ島・葦山役所跡（江川邸）の順に、26 ヶ所のうち 20 ヶ所までが 3 割以上の値となり、認知はかなり進んでいると見られる。一方で、アクセス率（「行

グラフ 1 保護・活用の重要性

問 あなたは、市内の文化財・遺跡の保護や活用の重要性をどの程度感じていますか。（1つ選択）



グラフ 2 重要性の地区別評価点



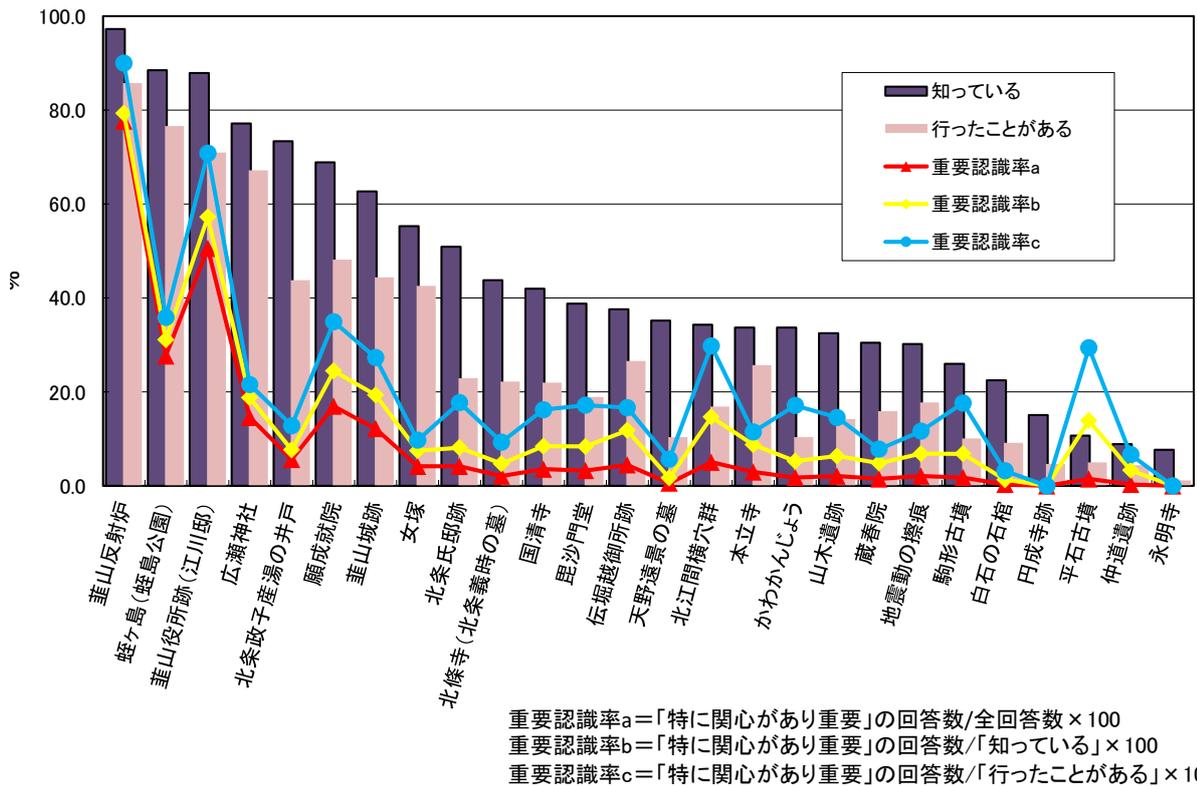
ったことがある」の割合)は、周知度が中位以下のものでは高低の差が激しくなり、「知っているも行ったことがない」ものが多い。たとえば、北条氏邸跡の周知度は50.9%だが、アクセス率は46.0%である。

特に関心があり、保護・活用が重要と指摘される割合は、葦山反射炉と葦山役所跡(江川邸)が突出し、他の文化財・遺跡との間に大きな格差があり、市民の関心に偏りがあるといえる(グラフ3参照)。

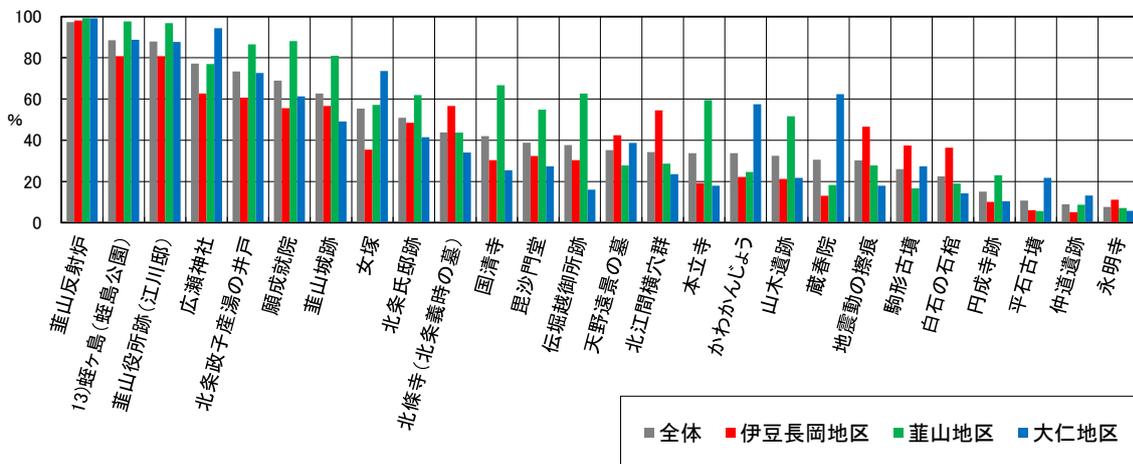
グラフ3 文化財・遺跡の周知度・関心度・重要認識度

問 次にあげる伊豆の国市の文化財・遺跡の中で、知っているもの、行ったことがあるものをいくつか選んでください。

問 上であげた文化財・遺跡の中で、特に関心があり、その保護や活用が重要だと思うものを3つまで選んでください。



グラフ4 文化財・遺跡の周知度 居住地区別の比較



各文化財・遺跡を「知っている」の割合を居住地区別に比べると、それぞれの所在地区が相対的に高い割合を示しているが、「葦山反射炉」は各地区とも高い割合で近接しており、群を抜いた周知度を示している。「知っている」割合が低い文化財・遺跡では、所在地区とそれ以外で「知っている」の割合の格差が大きいものが多い（グラフ4参照）。

●主要な文化財・遺跡について

史跡を中心に、市内の主要な8ヶ所の文化財・遺跡について、周知度や市民のもつイメージをたずねた。

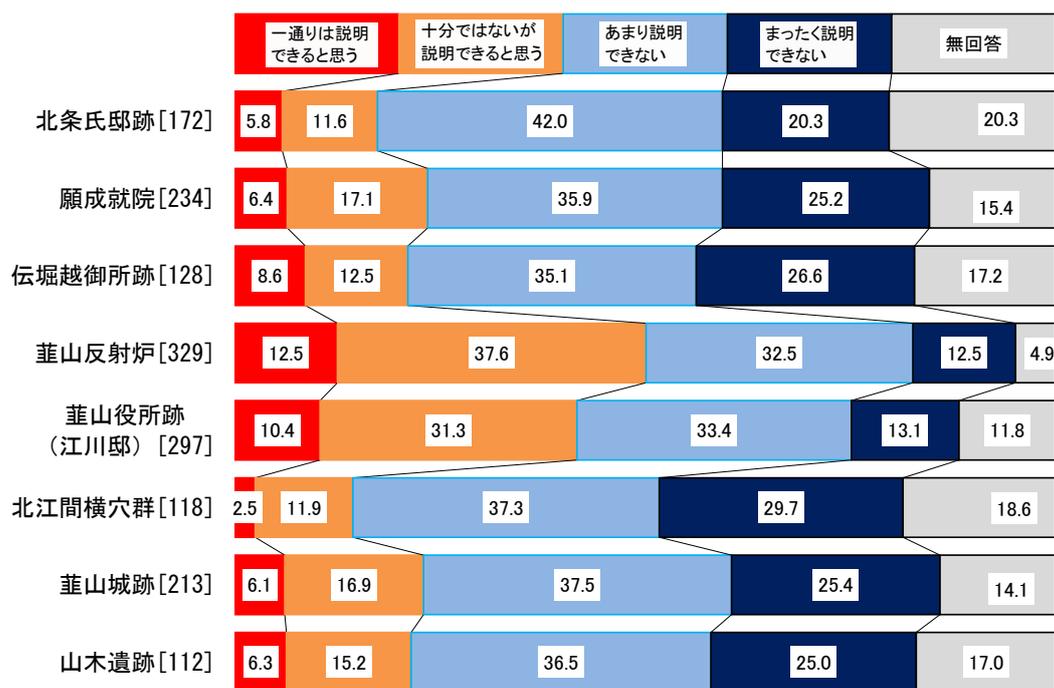
主要な文化財・遺跡を知ったきっかけは、いずれの場合も「地元なので自然に」が最も多いが、葦山反射炉と葦山役所跡（江川邸）は「学校で習った」の割合が比較的高いのが目立つ。前項の重要性の指摘の高さも、教育の成果・結果と見ることができる。

また、「知っている」ものについてお客様に「説明できる」程度をたずねたが、その割合も、葦山反射炉と葦山役所跡（江川邸）が他を大きく引き離しており、この2つについては市民への周知が特に行き届いていることがわかる。そのいっぽうで、他の文化財・遺跡の周知が相対的に不十分なことも表している（グラフ5参照）。

8つの文化財・遺跡で「知っている」ものについてのイメージは、いずれも「歴史学習の場」、「歴史を伝える文化的な空間」の割合が多い。その中でも、葦山反射炉と葦山役所跡（江川邸）では「市民のシンボリックな存在」、葦山城跡では「人々の憩いの広場・公園空間」の割合が比較的高いのが注目され、これらがやや特殊なものとして見られていることを示している。

グラフ5 主要な文化財・遺跡の周知度

問 あなたは、お客様をその文化財・遺跡に案内するとしたら、どの程度説明ができますか。
（「知っている」ものについて、それぞれ1つずつ）



●主要な文化財・遺跡の保護・保存状況・整備について

現状の保護・保存状況に対しては、葦山反射炉と葦山役所跡（江川邸）及び願成就院で特に高い評価である。

今後の保護・保存や活用に対しては、葦山反射炉と葦山役所跡（江川邸）で、まちづくり資源としての活用整備への積極的姿勢の回答割合が突出している（グラフ6参照）。

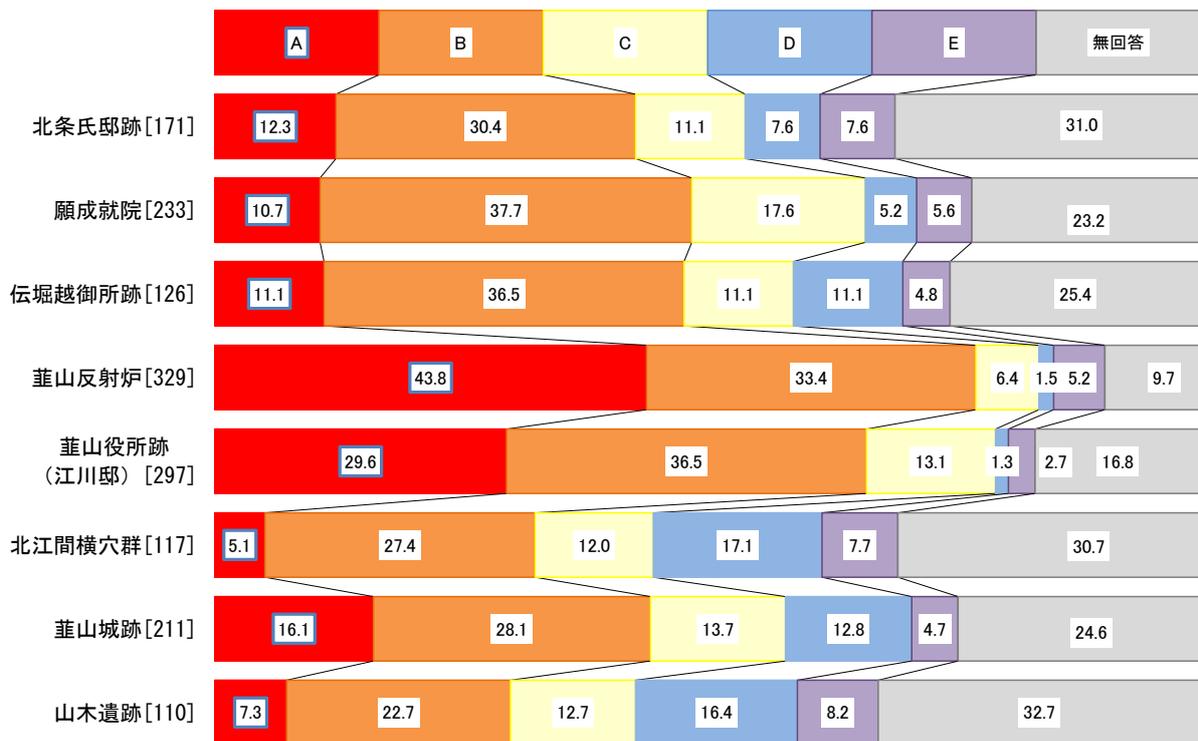
今後必要な整備内容では、「案内表示」がいずれも多いが、葦山反射炉では「資料館」、願成就院や伝堀越御所跡、北江間横穴群では駐車場・駐輪場の割合が比較的高く、アクセスの妨げになっていることを伺わせる。市内の文化財・遺跡の整備・公開については、数よりも内容の充実が多く求められているようである（グラフ7参照）。

また、文化財・遺跡の紹介・学習の施設の整備においては、情報発信や提供・学校教育との連携が強く求められている。また、参加しても良い活動として「学習機会への参加」が突出しており、市民の学習意欲が高いことが現れている。文化財についての関心の偏りの是正等のためには、より幅広い学習機会提供や情報提供が必要であることを示唆しているとも言える（グラフ8参照）。

グラフ6 主要な文化財・遺跡の保護・保存・活用について

問 その文化財・遺跡の今後の保護・保存や活用についてどのようにお考えですか。
（「知っている」ものについて、それぞれ1つずつ）

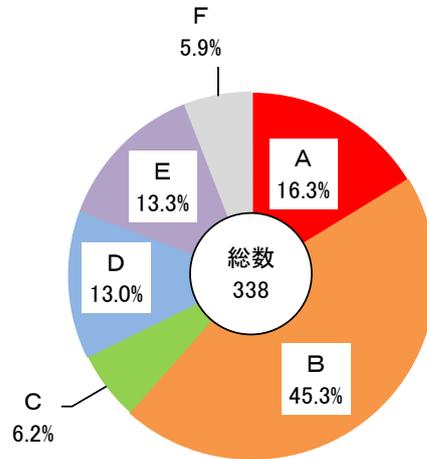
- A：まちづくりの資源として積極的に公開、活用のための整備を行うのがよい
- B：保護・保存と両立させながら公開やまちづくりへの活用をしていくのがよい
- C：保護・保存に支障のない範囲で限定的に公開していくのがよい
- D：あるままの姿で保護・保存することを重視し、公開や活用は考えなくてよい
- E：わからない



グラフ7 主要な文化財・遺跡の保護・保存・活用について

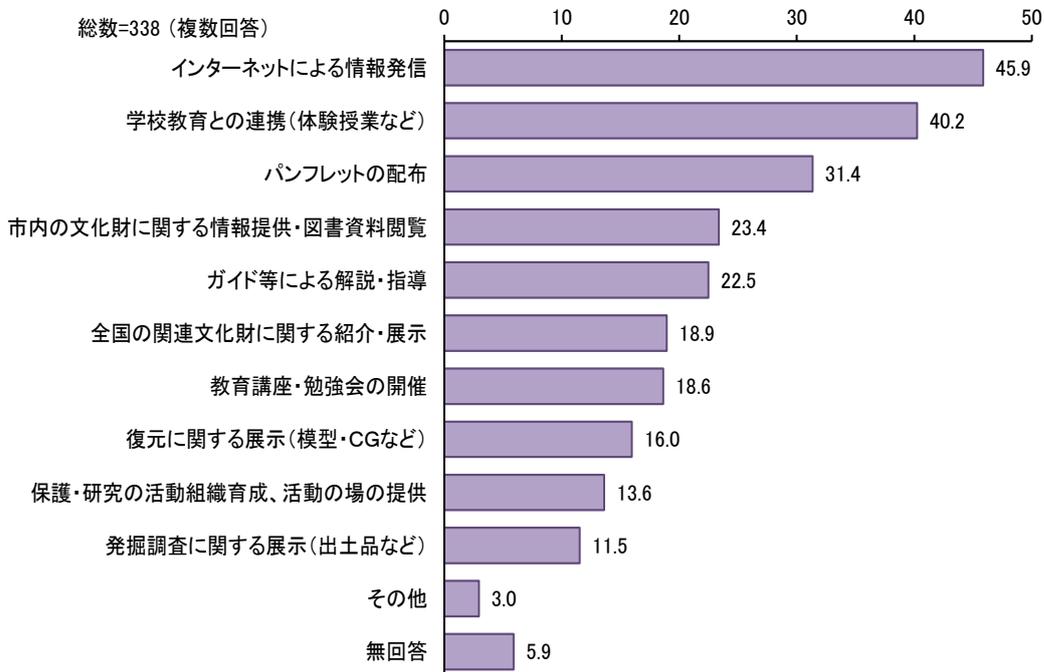
問 伊豆の国市では、一部の文化財・遺跡を整備・公開しています。このように文化財・遺跡を整備・公開することについてあなたはどのようにお考えですか。(1つ選択)

- A：さらに整備・公開する施設を増やし、かつ、その内容を充実させるべきだ
- B：整備・公開する施設の数に現状程度でよいが、その内容を充実させるべきだ
- C：内容は現状程度でよいが、整備・公開する施設の数を増やすべきだ
- D：整備・公開する施設の数、その内容ともに現状程度でよい
- E：わからない
- F：無回答



グラフ8 主要な文化財・遺跡の保護・保存・活用について

問 伊豆の国市で文化財・遺跡を紹介し、学習できるような施設を整備、充実させようとする場合、どのようなサービスを望みますか。(3つ以内選択)



資料9 伊豆の国市まちづくりに関するアンケート調査結果

①住民意向の把握方法

伊豆の国市では、第一次伊豆の国市総合計画「後期基本計画」の策定にあたり、平成23年度に「伊豆の国市まちづくりに関するアンケート調査」を実施している。この調査の実施概要は以下のとおりである。

調査時期：平成23年7月

調査対象：市内在住の18歳以上の市民2,500人

有効回収数：1,112件

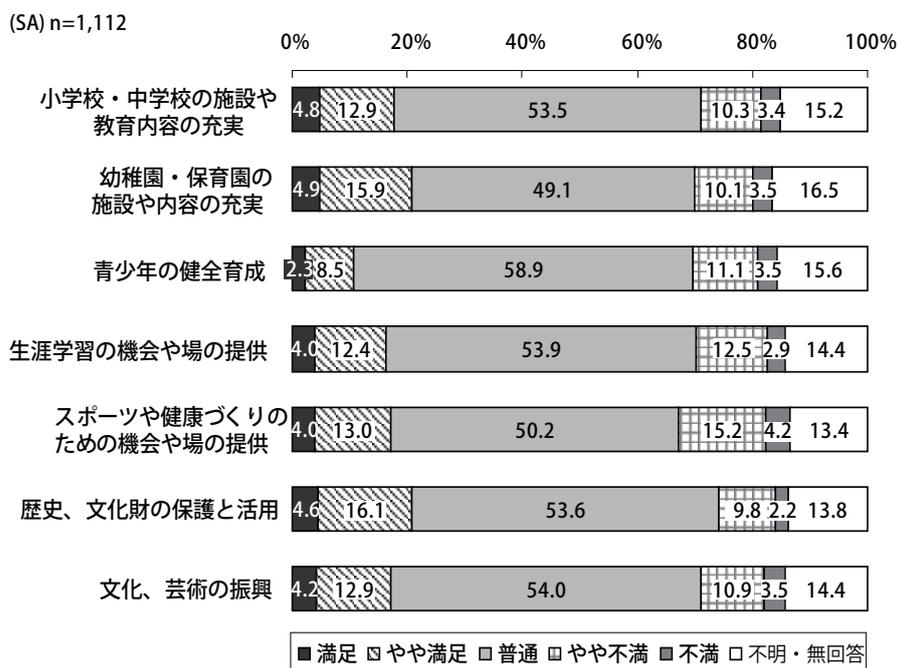
有効回答率：44.5%

②結果概要

アンケート結果報告書から、歴史文化に関連する内容として、以下の3項目を取り上げる。

●前期基本計画における取り組みの「満足度」

前期基本計画における各分野の取り組みのうち、“未来を担う人を育み、豊かな歴史・文化を築くまち”の分野における各取り組みの満足度について、以下のようなグラフにまとめられている。この中で、「歴史、文化財の保護と活用」の「満足」と「やや満足」を合わせた『満足』の割合が、「幼稚園・保育園の施設や内容の充実」と並んで2割を超え、比較的高くなっている。

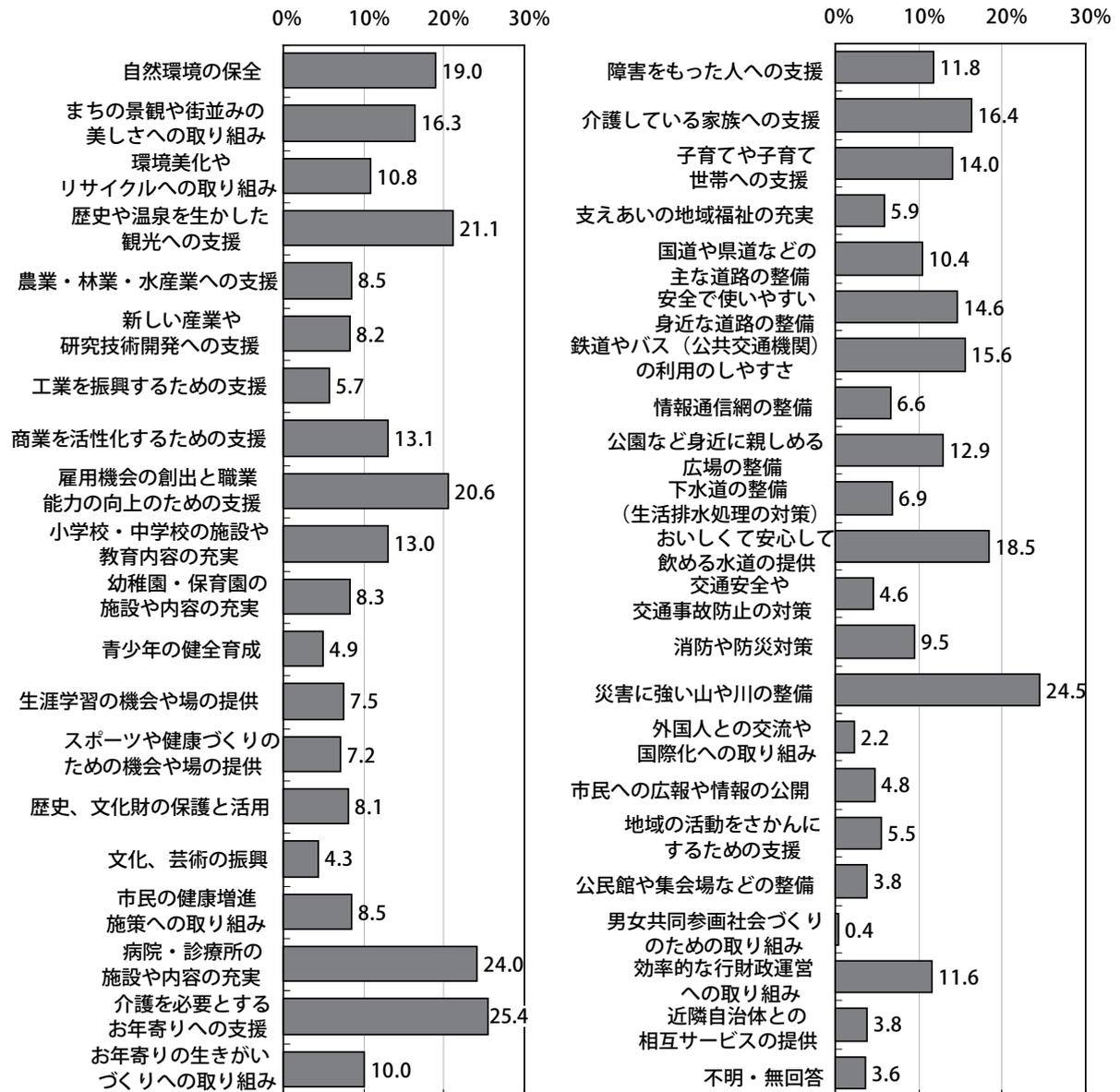


●今後のまちづくりを進めていく上で、重点的に取り組む必要のあるもの

重点的に取り組む必要があるものに対する回答は次ページのグラフにまとめられている。

「歴史、文化財の保護と活用」への重点的取り組みが必要との回答が8.1%を占めている。満足度は高いが、今後のまちづくりにおいても継続して歴史、文化財の保護と活用を図っていく必要があることが読み取れる。一方、「歴史や温泉を生かした観光への支援」が21.1%を占め、観光との連携施策が強く望まれていることがわかる。

(MA) n=1,112

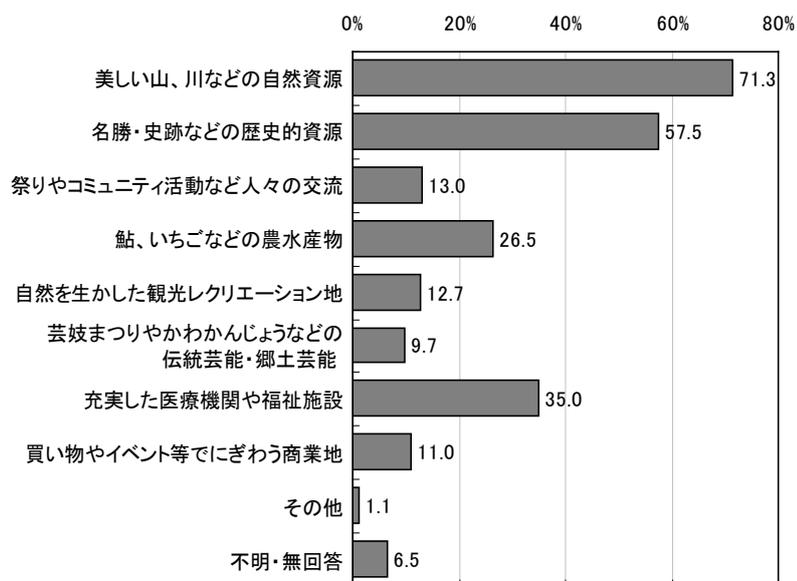


●伊豆の国市民として誇れるもの、将来まで残したいもの

市政運営やまちの将来について、伊豆の国市民として誇れるもの、将来まで残したいものについては以下のグラフのような調査結果となった。

美しい山、川などの自然資源について、名勝・史跡などの歴史的資源が57.5%を占め、特にめいしょう 葦山地区での歴史資源の保存の要望が高い結果を示している。

(MA) n=1,112



資料10 伊豆の国市GAP調査結果

①住民意向の把握方法

市の文化財に対する市GAP調査は、地域が持つ観光資源について観光地としてのイメージを聞き、その「認知度」と「興味度」を把握し、そのギャップを明らかにすることで、観光課題の検討、プロモーション展開の方向明確化に役立てようとするもので、平成21年度に実施されたものである。

調査主体：伊豆の国市観光産業部観光商工課

調査期間：平成21年11月25日（水）～11月26日（木）

調査対象者：インターネットリサーチ「マクロミル」のモニタ会員1030名

対象者は20歳以上の男女 男女均等割り付け

回答者：1,030人

男性45.7%、女性54.3%

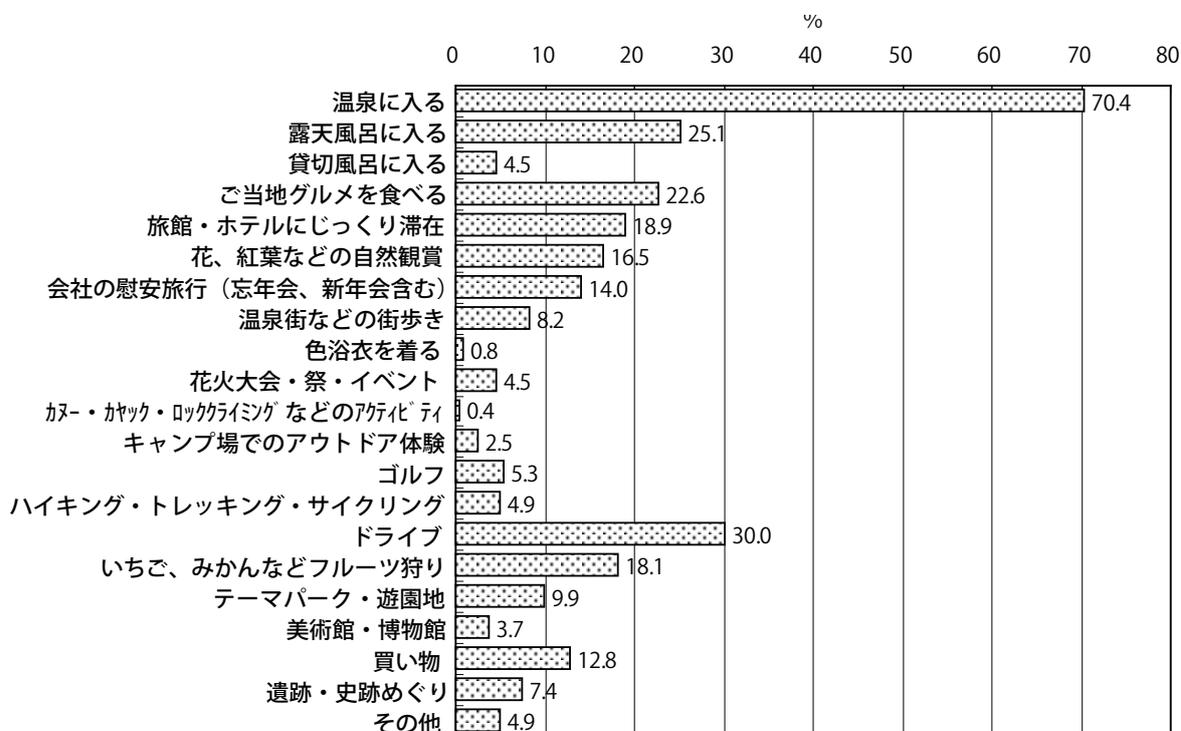
年齢は57.6%が40歳未満

居住地は関東が70%、静岡県が20%

②結果概要

●伊豆の国市への旅行での目的

伊豆の国市への旅行目的では、以下のグラフのように、「温泉に入る」が圧倒的に多く、「遺跡・史跡めぐり」は7.4%にとどまっている。

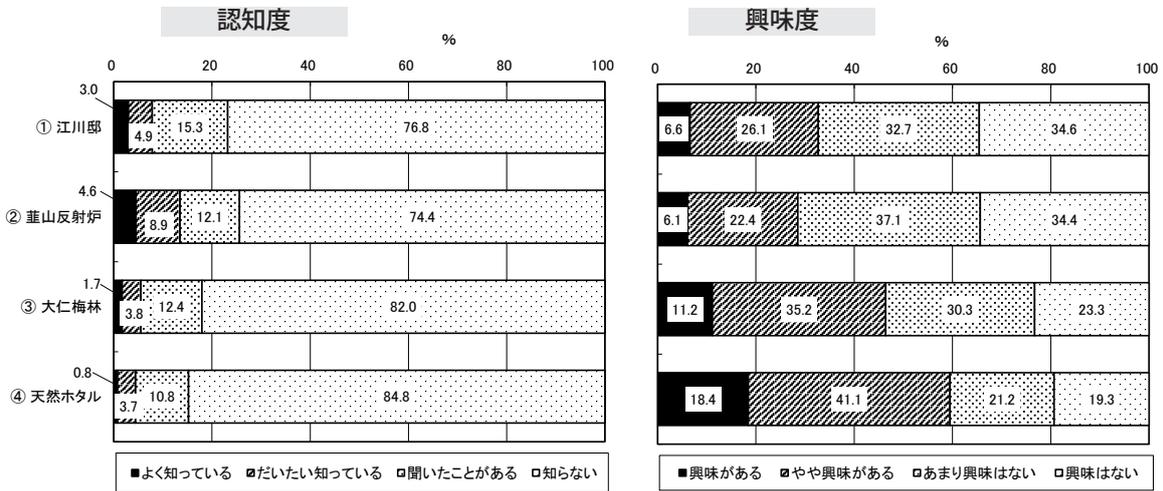


●認知度と興味度のギャップ

伊豆の国市に関して設定された24の項目に対する認知度（ご存じですか）と興味度（関心度をお聞かせください）をたずねた結果のうち、歴史・文化財に関係する以下の4項目の結果を抽出して比較した。

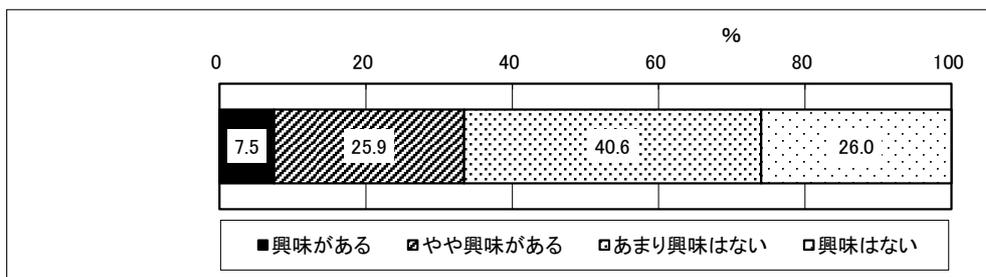
- ① 江戸時代の代官屋敷、重要文化財「江川邸」は、NHK大河ドラマ「篤姫」のロケでも使用され放映後ファンが今も訪れる。
- ② 伊豆の国市のシンボリックな存在「葦山反射炉」は、江川家36代・坦庵がペリー来航時、大砲を鑄造する目的に作った溶鉱炉。平成19年経済産業省から近代化産業遺産に認定された。
- ③ 大仁神社境内にある「大仁梅林」では、2月に「梅まつり」が開催され、熱海や修善寺より密集した梅林に定評がある。
- ④ 5～6月にかけて反射炉周辺の古川に「天然ホタル」が自生。ほたる祭りの時期にはライトアップされる。

葦山反射炉に関する項目が、「良く知っている」、「だいたい知っている」、「聞いたことがある」の合計で25.6%となっているが、他の項目ではそれよりも低い認知度である。しかし、興味度では、低い認知度の項目ほど興味の度合いが強くなっており、反射路周辺のホタルに関しては「興味がある」、「やや興味がある」の合計が約6割に達している。

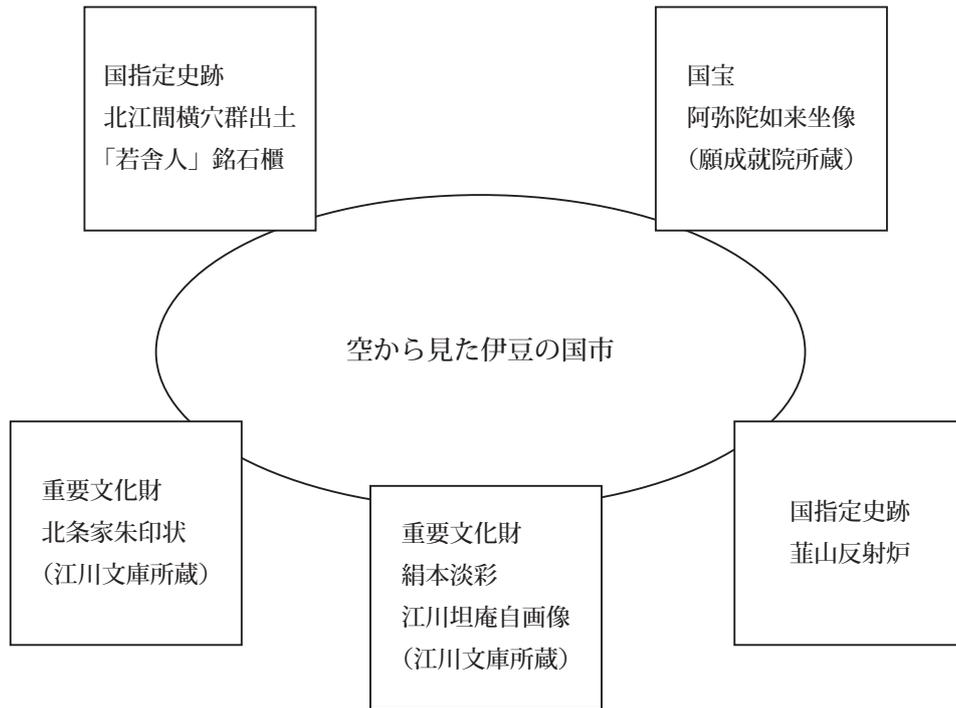


●歴史観光ツアーへの興味

伊豆の国市への旅行内容としての新たなスポット・体験・イベントの提案の中で、観光ツアーに対する設問がある。「伊豆の国市で、もし以下のようなスポット・体験・イベントがあれば、興味がありますか？」という問いの中で、歴史観光ツアーである「国指定の重要文化財・石櫃『若舎人』がある『大北横穴群』、江戸の代官屋敷『江川邸』など、伊豆の国市に点在する、太古の古墳や歴史ある住居跡をめぐる観光ツアー」への興味は、以下のグラフのように、「興味がある」と「やや興味がある」を合わせて約1/3となっている。



表紙写真 空から見た伊豆の国市と文化財



伊豆の国市歴史文化基本構想

平成 26 年 3 月 発行

編集・発行 伊豆の国市 文化振興課

〒 410-2292 静岡県伊豆の国市長岡 346 - 1

印刷 アサダ印刷株式会社